

非平衡科学 前半レポート

05-211525 齋藤駿一

2022 年 12 月 27 日

1

以下の 2 次元 Fokker-Planck 方程式（引数は省略した）を考える．

$$\partial_t P_{X,Y} = -\partial_x (\nu_X P_{X,Y}) - \partial_y (\nu_Y P_{X,Y}), \quad (1)$$

$$\nu_X = \mu F_X - \mu \beta^{-1} \partial_x \ln P_{X,Y}, \quad (2)$$

$$\nu_Y = \mu F_Y - \mu \beta^{-1} \partial_y \ln P_{X,Y}. \quad (3)$$

1.1

平衡とは，任意の場所で確率の流れがゼロとなる定常状態のことである．つまり，任意の (x, y) について

$$\nu_X(x, y; t) = \nu_Y(x, y; t) = 0 \quad (4)$$

が成り立つことである．

1.2

定常とは，任意の場所で確率分布が時刻によらない状態のことである．つまり，任意の (x, y) について

$$\partial_t P_{X,Y}(x, y; t) = 0 \quad (5)$$

が成り立つことである．

1.3

講義資料によると，Fokker-Planck 方程式

$$\partial_t P_X(x; t) = -\partial_x [A^{(1)}(x; t) P_X(x; t)] + \frac{1}{2} \partial_x^2 [A^{(2)}(x; t) P_X(x; t)] \quad (6)$$

には Langevin 方程式

$$\frac{dx}{dt} = A^{(1)}(x(t); t) + \sqrt{A^{(2)}(x(t); t)} \cdot \xi(t) \quad (7)$$

が対応する．今回の系は x 成分と y 成分を独立に扱えるので，それぞれについて上のような対応を考えると，x 成分については

$$A^{(1)} = \mu F_X, \quad A^{(2)} = 2\mu\beta^{-1}, \quad (8)$$

y 成分については

$$A^{(1)} = \mu F_Y, \quad A^{(2)} = 2\mu\beta^{-1} \quad (9)$$

となる．したがって，Fokker-Planck 方程式 (1) に対応する Langevin 方程式は

$$\frac{dx}{dt} = \mu F_X + \sqrt{2\mu\beta^{-1}} \cdot \xi(t) \quad (10)$$

$$\frac{dy}{dt} = \mu F_Y + \sqrt{2\mu\beta^{-1}} \cdot \xi(t) \quad (11)$$

と与えられる．

1.4

式 (1) に式 (2) および式 (3) を代入すると，

$$\partial_t P_{X,Y} = -\mu \partial_x (F_X P_{X,Y}) + \mu\beta^{-1} \partial_x^2 P_{X,Y} - \mu \partial_y (F_Y P_{X,Y}) + \mu\beta^{-1} \partial_y^2 P_{X,Y} \quad (12)$$

が得られる．この右辺の第 1 項は x 方向に働く力 F_X による駆動を表し，第 2 項は x 方向の拡散を表す．これらはそれぞれ式 (10) の右辺第 1 項，第 2 項に対応する．同様に，上式の第 3 項と第 4 項は，y 方向の駆動と拡散なので，それぞれ (11) の右辺第 1 項，第 2 項に対応する．

1.5

力を次のように与える．

$$F_X = -\partial_x U(x, y), \quad (13)$$

$$F_Y = -\partial_y U(x, y), \quad (14)$$

$$U(x, y) = \frac{k}{2} (x^2 + y^2). \quad (15)$$

このとき，

$$\nu_X = -\mu \partial_x (U(x, y) + \beta^{-1} \ln P_{X,Y}(x, y; t)), \quad (16)$$

$$\nu_Y = -\mu \partial_y (U(x, y) + \beta^{-1} \ln P_{X,Y}(x, y; t)), \quad (17)$$

となるので，平衡の条件 (4) から，平衡分布 $P_{X,Y}^{\text{eq}}$ に対して

$$\partial_x (U(x, y) + \beta^{-1} \ln P_{X,Y}^{\text{eq}}(x, y)) = \partial_y (U(x, y) + \beta^{-1} \ln P_{X,Y}^{\text{eq}}(x, y)) = 0 \quad (18)$$

が成り立つ。よって、 $U + \beta^{-1} \ln P_{X,Y}^{\text{eq}}$ は (x, y, t) のいずれにもよらない関数となるので、

$$U(x, y) + \beta^{-1} \ln P_{X,Y}^{\text{eq}}(x, y) = \text{const.} =: c \quad (19)$$

となる。したがって、

$$P_{X,Y}^{\text{eq}}(x, y) = e^c e^{-\beta U(x, y)} \quad (20)$$

が成り立つ。この両辺を x, y について積分すると、規格化条件より、

$$\begin{aligned} 1 &= e^c \int dx \int dy e^{-\beta U(x, y)} \\ \therefore e^c &= \left[\int dx \int dy e^{-\beta U(x, y)} \right]^{-1} \end{aligned} \quad (21)$$

となる。具体的な U の表式を代入して計算すると、

$$\int dx \int dy e^{-\beta U(x, y)} = \frac{2\pi}{\beta k} \quad (22)$$

となるので、

$$e^c = \frac{\beta k}{2\pi} \quad (23)$$

が分かる。よって、平衡分布は

$$P_{X,Y}^{\text{eq}}(x, y) = \frac{\beta k}{2\pi} e^{-\frac{\beta k}{2}(x^2+y^2)} \quad (24)$$

と求まる。

1.6

解けなかったが、分かったところまで書く。

定常分布を $P_{X,Y}^{\text{st}}$ とおき、さらに

$$\nu_X^{\text{st}} := \mu F_X - \beta^{-1} \partial_x \ln P_{X,Y}^{\text{st}} = \mu(-kx + ay) - \mu\beta^{-1} \partial_x \ln P_{X,Y}^{\text{st}} \quad (25)$$

$$\nu_Y^{\text{st}} := \mu F_Y - \beta^{-1} \partial_y \ln P_{X,Y}^{\text{st}} = \mu(-ax - ky) - \mu\beta^{-1} \partial_y \ln P_{X,Y}^{\text{st}} \quad (26)$$

とおくと、

$$\partial_x(\nu_X^{\text{st}} P_{X,Y}^{\text{st}}) + \partial_y(\nu_Y^{\text{st}} P_{X,Y}^{\text{st}}) = 0 \quad (27)$$

が成り立つ。代入して整理すると、

$$(\partial_x^2 + \beta k x \partial_x) P_{X,Y}^{\text{st}} + (\partial_y^2 + \beta k y \partial_y) P_{X,Y}^{\text{st}} = -2\beta k P_{X,Y}^{\text{st}} - \beta a(x \partial_y - y \partial_x) P_{X,Y}^{\text{st}} \quad (28)$$

となる。ここで、関数 $F(x, y)$ を

$$P_{X,Y}^{\text{st}} = e^{-\frac{\beta k}{2}(x^2+y^2)} F(x, y) \quad (29)$$

とにおいて、上式を整理すると、

$$(\partial_x^2 + \partial_y^2)F(x, y) = -\beta a(x\partial_y - y\partial_x)F(x, y) \quad (30)$$

が得られる。さらに、直交座標 (x, y) の代わりに極座標 (r, θ) を用いると、

$$F(r, \theta) := F(x = r \cos \theta, y = r \sin \theta) \quad (31)$$

として、

$$\left(\partial_r^2 + \frac{1}{r} \partial_r + \frac{1}{r^2} \partial_\theta^2 \right) F(r, \theta) = -\beta a \partial_\theta F(r, \theta) \quad (32)$$

が分かる。これを変数分離して解こうとしたがうまくいかなかった。

問題の解答にはならないが、確率の非負性を満たさない定常分布は次のように求まった。問題を簡単にするため

$$\partial_\theta F(r, \theta) = 0 \quad (33)$$

と仮定すると、

$$\left(\partial_r^2 + \frac{1}{r} \partial_r \right) F(r, \theta) = 0 \quad (34)$$

となる。この解は任意定数 c を用いて

$$F(r, \theta) = c \ln r \quad (35)$$

と書ける。したがって、

$$P_{X,Y}^{\text{st}} = c e^{-\frac{\beta k r^2}{2}} \ln r \quad (36)$$

と書ける。これは確率の非負性を満たさないが、規格化条件を満たすように c を

$$c = \left[\int_0^\infty e^{-\frac{\beta k r^2}{2}} \ln r \cdot 4\pi r^2 dr \right]^{-1} \quad (37)$$

とすることはできる。この積分は、 $u = \beta k r^2 / 2$ と変数変換し、積分の公式を用いると、

$$\begin{aligned} \int_0^\infty e^{-\frac{\beta k r^2}{2}} \ln r \cdot 4\pi r^2 dr &= \frac{2\sqrt{2}\pi}{(\beta k)^{3/2}} \left[\ln \frac{2}{\beta k} \cdot \int_0^\infty u^{1/2} e^{-u} du + \int_0^\infty u^{1/2} e^{-u} \ln u du \right] \\ &= \frac{2\sqrt{2}\pi}{(\beta k)^{3/2}} \left[\frac{\sqrt{\pi}}{2} \ln \frac{2}{\beta k} + \frac{\sqrt{\pi}}{2} (2 - \gamma - \ln 4) \right] \\ &= \sqrt{\frac{2\pi^3}{(\beta k)^3}} [2 - \gamma - \ln(2\beta k)] \end{aligned} \quad (38)$$

と書き直せる*1。ただし、 γ はオイラー定数である。以上より、確率の非負性を満たさない定常分布

$$P_{X,Y}^{\text{st}} = \frac{1}{2 - \gamma - \ln(2\beta k)} \sqrt{\frac{(\beta k)^3}{2\pi^3}} e^{-\frac{\beta k}{2}(x^2 + y^2)} \ln \sqrt{x^2 + y^2} \quad (39)$$

が得られる。

*1 実際には Wolfram Alpha を用いた。